

# 日本家庭医療学会会報

第63号

発行日 2008年5月28日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)

## 第3回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー

2008年2月9、10日、大阪のトーコーシティホテル梅田にて『第3回若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー』が開催されました。若手家庭医部会が主体となってからは3回目のセミナーで、総勢約100名の参加者、講師が集まりました。その内容を紹介します。

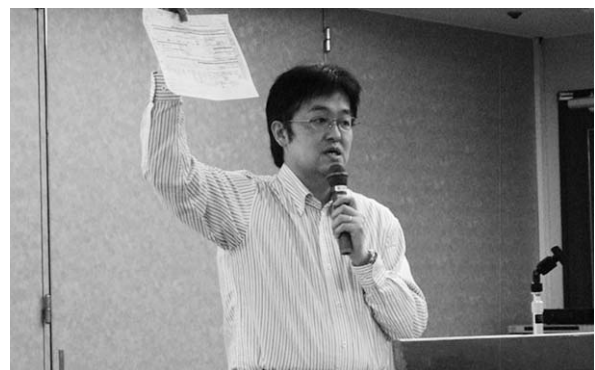
### 開会講演



### 家庭医との出会い、 家庭医となるための出会い

揖斐での10年で学んだ事を101歳のKさんとの関わりをもとに吉村先生ご自身のライフサイクルやバイオリズムを絡めてご講演いただきました。

ツツガムシ病を診断したときの経験を、実は初めにツツガムシに気づいたのは看護師さんであった、発熱で倒れているのを発見したのは郵便局員だった、Kさんからは入院せずに済んでよかったと感謝され医師患者関係が深まったと



紹介されました。医学的診断はもちろんのこと、独居をささえる地域のネットワーク、医師患者関係について考えさせられた機会であったそうです。Kさんが帯状疱疹後神経痛に悩んでいたとき、医学生と研修医に帯状疱疹後疼痛の持続  
(次ページにつづく)

### 【この号の主な内容】

第3回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー報告 … 1	第20回 医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー 案内 32
平成20年度 第1回 家庭医療後期研修プログラム指導医 … 7	日本家庭医療学会 サテライトワークショップ in 広島 案内 34
養成のためのワークショップ報告	平成19年度 日本家庭医療学会 研究補助金 選考結果のお知らせ 35
平成19年度 第4回日本家庭医療学会理事会議事録 …… 9	平成20年度 日本家庭医療学会 後期研修プログラムの本認定について 35
<b>第23回日本家庭医療学会学術集会・総会 案内 11</b>	リレー連載 診療所研修/東京・杉並家庭医療学センター 36
役員選挙開票結果 ……………… 30	「生涯学習(CME)に役立つツール」特集 ……………… 38
若手家庭医部会選挙開票結果 ……………… 31	事務局からのお知らせ ……………… 39

第3回  
若手家庭医のための  
家庭医療学冬期セミナー

日程 2008年2月9日(土)～10日(日)

会場 トーコーシテイホテル梅田(大阪)

全体テーマ「**継続性にこだわる**」

《プログラム》

1日目(2月9日)

開会講演

「家庭医との出会い、  
家庭医となるための出会い」

揖斐郡北西部地域医療センター  
吉村 学 氏

ワークショップ1.

「家庭医療の理論的基盤としての  
生物心理社会モデル」

- ・講師 横林 賢一氏(医療生協家庭医療学レジデンシー東京)
- 斎木 啓子氏(医療生協家庭医療学レジデンシー東京)
- 渡邊 隆将氏(医療生協家庭医療学レジデンシー東京)
- 林 佐保里氏(医療生協家庭医療学レジデンシー東京)
- ・指導医 藤沼 康樹氏(日生協医療部会家庭医療学開発センター)

ワークショップ2.

「家族志向のケア」

- ・講師 吉本 尚氏(奈義ファミリークリニック)
- 佐古 篤謙氏(奈義ファミリークリニック)
- ・指導医 松下 明氏(奈義ファミリークリニック)

ワークショップ3.

「医師は患者さんをどこまで理解できるか?  
～予防と行動変容にむけての関西風ワークショップ」

- ・講師 北村 大氏(市立堺病院)
- 高松 典子氏(本田診療所)
- ・指導医 竹中 裕昭氏(竹中医院)



期間について調べてもらい、実際にKさんへ伝えてもらった。実際の患者さんの問題解決のために学習することで学習者の理解が深まると説明されました。学生や研修医と出会い、成長を見ることはおもしろく、自分にとってガソリンのようなのだと私たちにも勧めてくださいました。

また、診療所の診療や教育の評価、地域の疾患を調査する研究も必要なこと、家庭医療でのケアの継続性や関係性は海外でも研究中のトピックであると紹介いただきました。

その他、卒業後のアイデンティティ危機、診療所への赴任、家族の状況、人との関わりなども紹介され、大変なこともあるが地域医療はおもしろいと終始楽しそうな表情で私たちに語りかけてくださいました。

ワークショップ1



家庭医療の理論的基盤  
としての生物心理社会モデル

WS1では「家庭医療における診療教育モデルを学ぶ」と題して、「生物心理社会(BPS)モデル」をテーマに扱いました。家庭医らしい外来診療とそれに組み込まれる教育についての概説では、BPSアプローチとしてロチェスター大学で提唱されている6つの構成要素、1. 患者の物語と生活環境を踏まえること、2. 生物心理社会領域を統合すること、3. 関係性について着目すること、4. 医師自身を知ること、5. 臨床モデルをどのように適応するか、6. 多軸のアプローチを用いることが紹介されました。その後は各グループに別れ、レジデンシーの提示する比較的複雑な



ケースについてBPSアプローチを用いてディスカッションし、全体での共有を行いました。

終わりに、その日の学びを具体化するためにそれぞれの行動計画を立てました。幅広い守備範囲を有する家庭医の実践と教育のあり方をあらためて考えなおす、大変充実したWSになりました。(朝倉 健太郎)

## ワークショップ2



### 家族志向のケア

日常診療の中でどのように家族志向のケアを行うかについて、ロールプレイを行いながら学習するワークショップでした。SPさんと佐古先生とのロールプレイで始まり、私たちの心は一気に「難波さん一家」へと引き込まれていきました。ロールプレイのシナリオでは、鼻水を主訴に3人の兄弟が別々に受診し、蓄膿症になるのではないかと抗菌薬の処方執拗にせまる母親に注目が集まりました。医師役、母親役、子供役に分かれ、ロールプレイを計3回行いました。それぞれのシナリオがつながっており、継続的に家族と関わる流れのなかでの診療場面の設定でした。その母親の心理状況を理解しようとする中で、少しずつ家族の背景や家族の構造、ライフサイクルやストレスや感情的な結びつきが明らかになりました。家族図を少しずつ、追加、修正し、学習者の家族評価もしだいに深い域に達していました。学習者のロールプレイにも熱が入り、楽しく学べて、臨場感溢れるワークショップとなりました。(飛松 正樹)



## 2日目(2月10日)

### ワークショップ4.

#### 「これで安心!親と子のケア」

- ・講師 大橋 博樹氏(川崎市立多摩病院総合診療科)  
武者幸樹子氏(川崎市立多摩病院総合診療科)  
櫛笥 永晴氏(川崎市立多摩病院総合診療科)
- ・指導医 鶴岡純一郎氏(川崎市立多摩病院小児科)

### ワークショップ5.

#### 「楽々介護入門

～家庭医なら知っておきたい移乗介助のコツ～

- ・講師 川尻 英子氏(北中城若松病院)  
佐藤 健一氏(関西リハビリテーション病院)
- ・共同講師 城間あゆみ氏(北中城若松病院・理学療法士)

### ワークショップ6.

#### 「家庭での終末期医療

～地域での満足死を目指して～

- ・講師 船木 良真氏(三つ葉在宅クリニック)  
安藤 友一氏(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)  
今泉 勲氏(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)  
松井 渉氏(三つ葉在宅クリニック)
- ・指導医 宮崎 景氏(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)

### ワークショップ7.

#### 「EBM-エビの料理教室 予防医療エビ風味-」

- ・講師 西川 武彦氏(揖斐郡北西部地域医療センター)  
森永 太輔氏(みなと診療所)  
北村 大氏(市立堺病院)
- ・指導医 吉村 学氏(揖斐郡北西部地域医療センター)

### ワークショップ8.

#### 「タイムマネジメント」

- ・講師 朝倉健太郎氏(大福診療所)  
中川 貴史氏(寿都診療所)  
八藤 英典氏(北海道家庭医療学センター東室蘭クリニック)
- ・指導医 岡田 唯男氏(亀田ファミリークリニック館山)

### 閉会講演

#### 「明日への関係性を紡ぐ-家庭医の日々より」

北足立生協診療所  
井上真智子氏

### ポストセミナー企画「後期研修討論会」

ファシリテーター 若手家庭医部会



### ワークショップ 3

## 医師は患者さんをどこまで理解できるか?

～予防と行動変容にむけての関西風ワークショップ

「何が関西風なんやろ?」と、同じ関西人としては興味津々で臨んだWS。まさかあの「探〇ナイトスcoop」風に進行するとは思っていませんでした。

北村先生演じる桂小枝レポーターが、産業医の竹中先生の困っている患者さんの依頼シーンから始まりました。高松先生ふんするまりちゃ



んが、桜井先生演じるDMのコントロール不良の桜井さんに突撃取材、それが掛け合い漫才のように面白いのです。そして、桜井さんの不安を聞いて、それをもとに参加者同士でロールプレイするというWSの構成としても楽しめるものでした。

全体を通して、自己管理が重要であること、そのためにソリューションフォーカスアプローチがひとつの外来の面接技法であることを学び、大変勉強になるWSでした。

家庭医の現場での悩みは多く、探偵さんをお願いしたい依頼は確かに沢山あるのでしょうか。いつかこんな番組が本当に出来たりして…と思いました。そのときは僕ら若手家庭医が探偵になります!!  
(松井 善典)



## 懇親会

午後の日程終了後、参加者、講師が集まって懇親会が行われました。久しぶりにあつ



た友人と会話と楽しむ方、話してみたかった先生を見つけて質問をぶつける方など、皆さん楽しく会食されていました。



### ワークショップ 4



## これで安心! 親と子のケア

川崎市立多摩病院総合診療科の大橋博樹先生、櫛笥永晴先生とともに、同院小児科の鶴岡純一郎先生も講師として参加いただき、ワークショップが行われました。

はじめに、川崎市立多摩病院での総合診療科・小児科の協力関係が紹介され、鶴岡先生から小

児科医が家庭医に期待することとして「両親・家族を含めたトータルケア」「15歳以降の継続診療」「予防接種・健診」「小児科不在地域での養育医療」が挙げられました。

引き続き、熱性けいれんのケースと気管支喘息のケースで、まず診断基準を理解し、新たな知見も含めた治療方針が紹介され、「母親にどう説明をするか」という点に重点をおいたロールプレイを行いました。説明するポイントなどが分かりやすく、普段小児診療をしていない参加者でも疑似体験を通して学ぶことができたと思います。

家庭医と小児科医が協力することで、社会に貢献しお互いにwin-winの関係を構築できる、と考えてくれる小児科医がいることに大変勇気付けられました。自分としても家庭医の能力や得意分野を小児科医にアピールし、よい協力関係を作っていきたいと思いました。

(菅家 智史)



#### ワークショップ 5



### 楽々介護入門

～家庭医なら知っておきたい移乗介助のコツ～

このワークショップでは、移乗動作（トランスファー）を通して適切な動作介助のコツを体験することができました。学習者同士が介助者と被介助者とペアになり、ワークショップのほとんどが移乗介助の実技に費やされました。初めに、臥床している人の起き上がりの介助、次にベッドから車椅子への移乗介助を行いました。1回目終了後は、介助者からは「重かった」、被介助者からは「怖かった」という言葉が出てい



ましたが、コツを覚え回数を重ねるにつれ「あれ！え？楽々！」そんな言葉が各所で聞かれるようになったのが印象的でした。被介助者との距離や手の位置、足の位置、体の姿勢、力の入れる向きなどに注意しなければできませんでした。しかし、それは「被介助者を運ぶ」というイメージから起き上がりや移乗の正常動作に近づけることで楽々介助ができるということでした。

(飛松 正樹)

#### ワークショップ 6



### 家庭での終末期医療

～地域での満足死を目指して～

「在宅での終末期ケア」で、船木先生をはじめとする三つ葉在宅クリニックの若手 Dr が担当でした。実際に船木先生が関わった方の取り組みをビデオで供覧し、参加者で在宅におけるケアカンファレンスをロールプレイすることで、意思決定の枠組みを一緒に勉強しました。

「一人称の意思」である患者本人の思いを、周囲の人間が思いをめぐらすことが大切だという感想を持ちました。在宅に限らないことかもしれませんが、医療の意思決定の際には、医学的な問題だけではなく、患者や家族の思い、介護環境などの周囲の状況について考慮を入れて決めていくこと、患者本人が意思を表明できない時にケアカンファレンスで衆知を集めることの大切さを学びました。

(森永 太輔)

## ワークショップ7



### EBM

—エビの料理教室 予防医療エビ風味—

参加者は15 - 6人で全員の顔がみえ、非常に話しやすい雰囲気でした。進行もだじゃれを交えながら楽しく進み、小さめの会場ならではの濃縮した時間が味わえました。内容は、EBMの5ステップ（問題の定式化・情報収集・批判的吟味・患者への適応・振り返り）を一連のコース料理に見立て、実際の材料（症例）をもとにみなでコース料理を作っていく（EBMの手順を完成させていく）というもの。参加者の感想からは、「EBMで確率はでるので患者への説明はしやすいが、最終的にこうなさいという答えはでないので、医師も患者もまた悩む」「EBMで勧められる医療が、上級医の意見と違うと困る」など、現実へ適応させる段階での悩みが出ており、参加者の関心の高いステップなのだと感じました。今後、こういった悩みに対応する「エビの料理教室上級編」や「エビ調理師の悩みを語る会」などがあればと感じました。（江口 幸士郎）

## ワークショップ8



### タイムマネジメント

家庭医に限らずどんな職業においてもタイムマネジメントは必要となってくる、上手いタイムマネジメント法はないものかと思いこのワークショップに参加しました。

まずはグループワークにて各々が抱えている仕事について挙げて確認。その後、カナル現象やアイゼンハワーの法則について説明を受け、普段の仕事がつついカナル現象に従って行われていることに気づきました。その後、先に挙げた自分の仕事について、アイゼンハワーの法則に従って重要度と緊急度で分けられた四分劃表に入れていきました。いかに「緊急性はないが重要なこと」を「緊急で重要なこと」に変わる前にこなしておかなければならないか、ということを実感し今後もこの法則に従って自分自

身の仕事のマネジメントを行おうと決心しました。

またスケジュール管理ツールとしてGoogleカレンダーなどのWeb管理ツールを紹介していたりし、これらも試しに用いてみることにしようと思いました。

タイムマネジメントはすぐにできるものではなく、日々のツールを使い続けてそこでの経験・反省を繰り返しながらそれらを積み重ねて慣れて行くもので、明日からでもまずは教えられた通りにやってみよう、と思いました。（渡邊 力也）

## 閉会講演



### 明日への関係性を紡ぐ —家庭医の日々より

閉会講演として、北足立診療所の井上先生からお話をいただきました。

「人生は出会いで決まる」この言葉が印象的でした。

救急外来との相違という点では、「飛んできた玉を打ち返す」という形ではなく、飛んできた玉はいったん受け止めるということ、そしてさらに「いもづる式=家族ぐるみ」の診療スタイルについてお話がありました。

家庭医には「継続性」がよく問われますが、「続いているのは関係性」ということを示す様々なエピソードを聞かせていただきました。

また、関係性とは2者のものだけではなく、「網目のように」広がる関係性についてお話頂き、それが生み出す効果についてもまとめて頂き、これから、若手の家庭医が診療をしていく上で、一歩先に立つ先輩の話が聞けるよい機会となりました。（矢部 千鶴）



文責：日本家庭医療学会 若手家庭医部会 Web 担当

# 平成20年度 第1回 家庭医療後期研修プログラム指導医 養成のためのワークショップ **報告**

- ◆ 期日 平成20年4月12日(土)～13日(日)  
12日 13:00～17:00 / 13日 8:30～12:30
- ◆ 場所 TKP銀座ビジネスセンター カンファレンス5A  
〒104-0061 中央区銀座6-17-2 ビルネット館2

## 《内 容》

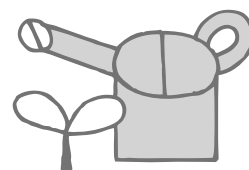
### ■ 4月12日(土)

1. 開会挨拶 (竹村副代表理事)
2. テーマ「相手に伝わる発表をする!! プレゼンの3つのコツ」  
講師：佐藤 健一 先生  
(医療法人 篤友会 関西リハビリテーション病院 リハビリテーション科)
3. テーマ「知っておきたいレジデンシー運営のポイント」(次ページに報告あり)  
講師：草場 鉄周 先生  
(医療法人 母恋 北海道家庭医療学センター 所長/本輪西サテライトクリニック 所長)
4. 懇親会 (軽食での情報交換会)

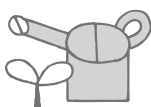
### ■ 4月13日(日)

1. テーマ「診療の質改善 (Quality Improvement) の教育と実践」  
講師：藤沼 康樹 先生  
(日生協医療部会家庭医療学開発センター 所長)
2. テーマ「家庭医らしい医療機関の構築— Personal Medical Home Project」  
講師：岡田 唯男  
(鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山/家庭医後期専門研修プログラム)
3. 閉会挨拶 (山田代表理事)

※当日の講演スライドなどについては後日会員専用ページで公開予定です。



## 知っておきたい レジデンシー運営の ポイント



草場 鉄周

(医療法人 母恋 北海道家庭医療学センター 所長 /  
本輪西サテライトクリニック 所長)

このセッションは、指導医の中でも特にプログラム責任者のレベルの方を対象としたワークショップとなった。プログラム認定から1年ほどが経過し、そろそろ実際のレジデンシー運営の難しさを各責任者が感じていることを想定して、北海道家庭医療学センターの12年のレジデンシー運営の実践に基づくノウハウを伝えることができればという思いで準備した。

内容は、参加者が実感を持って学ぶことができるように、架空のレジデンシーを想定し、3人のレジデントを巡っていろいろな問題が起きる中、指導医としてグループ単位でどうするべきかあれこれと考えていただくというスタイルであった。

最初は、レジデントのアイデンティティを巡る問題に対してどう考え対応すべきかというテーマ。比較的身近なテーマでもあり、議論も盛り上がった。身近な仲間の存在と指導医の未

来を見据えた姿勢の重要性を指摘した。

2つめは研修医のライフ&ワークバランスの問題。研修と常に切り離せない問題だが、ここをいかにうまく管理するかが持続する実りある研修をもたらすことが話題となった。

3つめは研修医コミュニティとのつきあい方についてで、閉鎖的な環境でレジデントの集団が持つエネルギーを意識することの重要性について話し合った。

4つめは診療と研修のバランスについてで、よい研修を目指せば目指すほど、実際の日常診療との調整が重要になることを指摘した。研修環境の整備をコメディカルスタッフも巻き込んで実施することが話題となった。

5つめは組織の運営方針と研修の関係について議論した。組織の一員としてのレジデントの立場とレジデント自身が研修に対して抱く意識との乖離が摩擦を生みかねない点について、悩ましい議論が続いた。

いずれもテーマとしては一つのワークショップに相当する内容であり、若干消化不良気味になった面はあるが、総論的にまずはポイントを意識してもらえることはできたと思う。今後、一つ一つのテーマについて、このワークショップの中で扱い、対策を検討することができればと思っている。





# 平成 19 年度 第 4 回日本家庭医療学会理事会議事録

日 時：2008 年 2 月 10 日（日）8:00～11:00

会 場：トーコーシティホテル梅田 2 階「蘭」

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典、葛西龍樹

理 事 雨森正記、亀谷 学、草場鉄周、小林裕幸、伴信太郎、松下 明、  
森 敬良、山本和利（以下は、委任状による出席）生坂政臣、  
大西弘高、岡田唯男、白浜雅司、西村真紀、藤沼康樹、三瀬順一

幹 事 福士 元春（以上、敬称略）

理事会定数 18 名中 18 名（うち委任状出席 7 名）の出席により、理事会成立

## 1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、2008 年 1 月 31 日現在で会員数が 1,711 名となったことが報告された。つづいて新入会者について承認された。

会員数：1,711 名（うち、医師会員 1,566 名）

入会者：62 名（2007 年 11 月 1 日～2008 年 1 月 31 日）

退会者：0 名（2007 年 11 月 1 日～2008 年 1 月 31 日）

未納者：96 名（H16 まで納入済）

会費未納率：30.6%（2008 年 1 月 31 日現在）

## 2. 平成 19 年度収支決算中間報告

山田代表理事より、平成 19 年度会計年度の中間報告があった。会員数の増加により正会員の会費収入が予算を上回ったこと、一部の事業については、現時点では収支を計上できていないことが述べられた。

## 3. 常設委員会・部会報告

### ◎編集委員会

事務局より、来年度は会誌を年 3 回発行する予定であることが述べられた。

### ◎広報委員会

松下理事より、2 月に発行予定の会報を作成中であること、市民向けホームページはメンバーを募って大枠が決まった状況であることが報告された。

### ◎生涯教育委員会

伴理事より、生涯教育委員会が関わる事業について報告および提案がなされた。

・雨森理事より、第 15 回生涯教育 WS について、大変盛況であった旨が報告され、来年度も同

じような形で定員を増やして行うことが述べられた。

・サテライトワークショップは、広島での開催予定で準備を進めている旨が報告された。

・田辺製薬より Scene 冊子版の買取の申し出があった件について、審議の結果、伴理事に一任することとなった。

・予防医学の本の出版についての進捗状況が報告された。

### ◎研究委員会

山本理事より、研究補助金に 5 つの申請があった旨が報告された。

### ◎後期研修（FD）委員会

・草場理事より、FD 委員会メンバーに佐藤健一氏が加わり 5 名体制となることが述べられた。

・指導医養成 WS の開催日程について、FD 委員会より第 2 候補まで出され、審議した結果、4 月の 12 日、13 日に決定した。また、年 3 回のオンサイトでの WS 形式に加えオンラインでも参加者に継続的に関わっていく案が議論されていることも報告された。

・指導医養成 WS と同等の講習会が地域で開催される場合、その参加を 1 回分にカウントできないかとの意見が出され、今後 FD 委員会で検討していくこととなった。

・3 学会認定制度検討委員会にオブザーバーとして FD 委員メンバーが出席することが提案され、今後必要があれば対応することとなった。

### ◎若手家庭医部会

森理事より、冬期セミナーの開催状況について報告がなされた。

#### ◎学生研修医部会

小林理事より、第19回夏期セミナーの会計について報告された。

#### 4. ワーキンググループ報告

##### ◎患者教育用パンフレット作成 WG

松下理事より、患者教育用パンフレットの作成メンバー初回50名が決定し、これからスタートすることが報告された。

##### ◎臨床研究初学者ワーキンググループ

山本理事より、来年度の第1回は、4月26～27日に東京近郊で行うことが報告された。

#### 5. 平成20年度事業計画および予算について

山田代表理事より、平成20年度の事業計画および予算について説明があり、承認は次回理事会にて行うことが述べられた。

#### 6. 平成20年度役員選挙について

山田代表理事より、役員選挙の日程や開票日の決定について報告があった。

#### 7. 3学会の合併および本学会の解散について

山田代表理事より、3学会の合併に関する協議の進捗状況が報告された。

合併および解散の総会決議をどの年度で行うかについては、3月16日に開催される3学会合同会議の内容によって決定することとなった。

#### 8. 後期研修プログラムの申請について

平成20年度後期研修プログラムの審査が行われた結果、再提出を含め15プログラムが認定された。

#### 9. 後期研修における診療所研修について

(3学会合同認定制度検討委員会から)

竹村副代表理事より、3学会合同認定制度検討委員会にて、いくつかの懸案事項があることが述べられた。

その中で、診療所研修のブロック研修期間廃止と、診療所研修の記載で「小病院」の「小」を外せるかが認定制度検討委員会で議論になった旨が報告された。様々な議論が交わされた結果、ブロック研修1ヶ月以上という解釈は3学会合併までとすること、小病院の「小」の字は残すこととなった。

#### 10. 後期研修プログラム終了後の試験について

後期研修プログラム終了後の試験について、合併との関連なども含め議論された。合併前にプログラムを終了する研修医について、合併前に本学会が独自で試験を行うか、日本PC会の認定試験に相乗りするか、合併を待って試験を行うかなど議論された。来年度は日本PC会と合同で専門医試験を行い、これに合格したものを本学会で認定する方向で進めるも、今後継続して審議していくこととなった。

#### 11. 後期研修プログラム申請書類について

葛西副代表理事より、後期研修プログラムに関わる諸申請・届出について書式が提示され、一部加筆訂正を加えた上で採用することが承認された。

#### 12. 家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップについて (FD委員会)

「3. 常設委員会・部会報告 (◎後期研修 (FD) 委員会)」を参照

#### 13. 第23回 (平成20年度) 学術集会について

葛西副代表理事より、第23回学術集会の開催にかかる現時点での予算と開催概要について説明があった。

#### 14. 第24回 (平成21年度) 学術集会について

雨森理事より、第24回学術集会 (合同大会) について、今後具体的な内容を決定していく段階であることが報告された。

#### 15. 平成19年度日本家庭医療学会研究補助金について

山本理事より、5つの申請があったことが報告された。

審査方法および審査員は、これまでどおり研究委員会と執行部にて行うこととなった。但し今回は竹村副代表理事が申請者の一人であるため、審査から外れることとなった。

#### 16. 特別賞 (田坂賞) について

松下理事より、第1回田坂賞の受賞者は、安田英己先生 (安田内科医院) に決定したことが報告され、承認された。



MAY 31-JUNE 1 2008 at THE UNIVERSITY OF TOKYO



# 23<sup>th</sup> 日本家庭医療学会学術集会・総会

テーマ **家庭医療の研究に取り組もう**  
～わたしたちのケアの質向上のために～

会期 **2008年5月31日(土)～6月1日(日)**

会場 **東京大学**

東京都文京区本郷 7-3-1

大会長 葛西 龍樹 (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)

事務局 第23回日本家庭医療学会学術集会・総会事務局  
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F  
あゆみコーポレーション内

TEL. 06-6449-7760 (学会専用)

FAX. 06-6441-2055 (あゆみコーポレーション共用)

E-mail : jafm2008@a-youme.jp

学術集会ホームページ

<http://a-youme.jp/jafm2008/>

今後、詳細につきましては、ホームページにてご案内させていただきます。

定期的にホームページの更新内容をご覧下さい。

MAY 31-JUNE 1 2008 at THE UNIVERSITY OF TOKYO

**23<sup>th</sup> 日本家庭医療学会学術集会・総会**

テーマ **家庭医療の研究に取り組もう**  
～わたしたちのケアの質向上のために～

主なプログラム  
Program

**総会総論議**  
『日本家庭医療学会の発展』  
事務局長 尾形 幸彦(日本家庭医療学会 会長・家庭医療部総長)

**シンポジウム・シンポジウム**  
『家庭医療の研究に取り組もう～わたしたちのケアの質向上のために～』  
『シンポジウム』  
『シンポジウム』

**シンポジウム**  
『シンポジウム』  
『シンポジウム』  
『シンポジウム』

**シンポジウム**  
『シンポジウム』  
『シンポジウム』  
『シンポジウム』

**シンポジウム**  
『シンポジウム』  
『シンポジウム』  
『シンポジウム』

会期 / **2008.5.31(Sat)～2008.6.1(Sun)**

会場 / **東京大学**  
〒113-8654 東京都文京区本郷4-1-1  
アパルタ / 下野校舎 東大附属 後身分 / 地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩4分

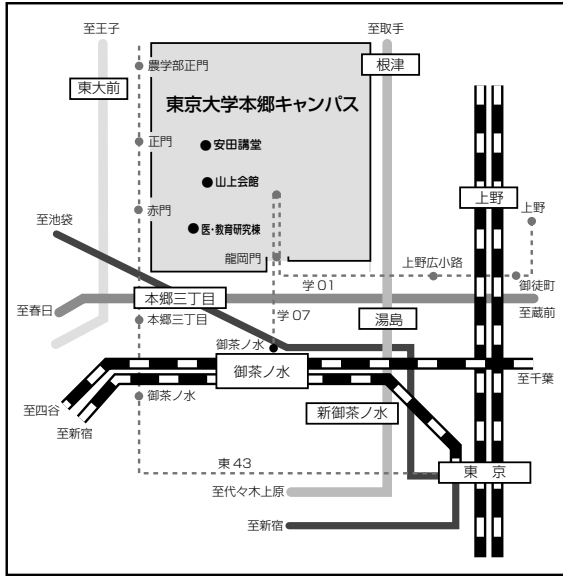
大会長 / **葛西 龍樹** (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部総長)

ホームページ / <http://a-youme.jp/jafm2008/>

お問い合わせ / 第23回日本家庭医療学会学術集会事務局(日本家庭医療学会 学術事務局内)  
TEL. 06-6449-7760 FAX. 06-6441-2055 jafm2008@a-youme.jp  
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F 事務局(あゆみコーポレーション内)

The Japanese Academy of Family Medicine

## 会場周辺地図



### 【最寄り駅】

- 本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)
- 本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線)
- 湯島駅又は根津駅(地下鉄千代田線)
- 東大前駅(地下鉄南北線)
- 春日駅(地下鉄三田線)

### ●御茶ノ水駅(JR中央線、総武線)

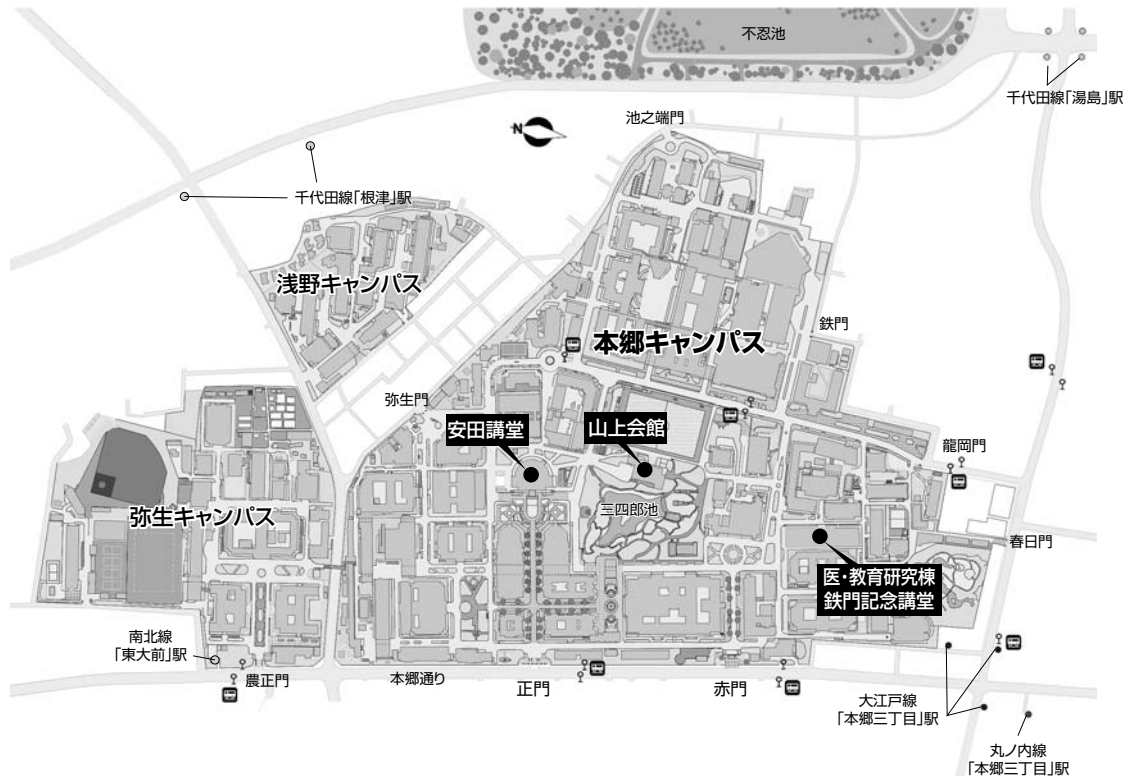
- 地下鉄利用 丸の内線(池袋行) → 本郷三丁目駅下車
- 地下鉄利用 千代田線(取手方面行) → 湯島駅又は根津駅下車
- 都バス利用 茶51 駒込駅、王子駅 又は 東43 荒川土手操車所前行  
→ 東大(赤門前、正門前)下車
- 学バス利用 学07 東大構内行  
→ 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車

### ●御徒町駅(JR山手線等)

- 都バス利用 都02 大塚駅前 又は 上69 小滝橋車庫前行  
→ 本郷三丁目駅下車
- 都02 大塚駅前 又は 上69 小滝橋車庫前行  
→ 湯島四丁目下車

### ●上野駅(JR山手線等)

- 学バス利用 学01 東大構内行  
→ 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車



## 大会長あいさつ



プライマリ・ヘルスケアの重要性に言及した「アルマ・アタ宣言 (Declaration of Alma-Ata)」が1978年に発表されてからちょうど30年という節目の年に大会長を仰せつかりました。「アルマ・アタ宣言」

と言っても若い学会員の皆さんは聞いたことがないかもしれませんが、世界のすべての人々の健康を守り増進することを世界中の関係者に力強く訴えたこの「宣言」は、日本でのプライマリ・ケアに関連する動きの原点とも重なります。確かにまだ21世紀が遠い未来に思えた時代に「西暦2000年までに世界のすべての人々に基本的な健康を」と訴えたタイムリミットは過ぎてしまい、この宣言の実効性について疑問視する人もいます。ただ、「宣言」に書かれているプライマリ・ヘルスケアの意義と活動内容の広がりは今でも読み応えがあり、むしろ今それが十分実現していないのは、現代社会で働く私たちの責任なのです。実現へ向けた計画・実践・連携・評価が不足しています。

「アルマ・アタ宣言」に盛り込まれているプライマリ・ヘルスケア（呼称は異なりますが本学会が目指す家庭医療と重なります）を地域社会で具体的なサービスとして実現するために必要なことが二つあります。そのひとつは家庭医療（プライマリ・ヘルスケア）の担い手の養成です。そのために本学会では標準的な家庭医療後期研修プログラムを作り全国でこのプログラムを利用して家庭医を養成する事業を平成18年度から始めました。

必要なことのもうひとつは家庭医療（プライ

マリ・ヘルスケア）の研究です。これも日本ではとても遅れており、この分野での世界的な研究はほとんど見つけられない状況です。他の分野の医学研究とは異なり、家庭医療の研究はわたしたちが行うケアの質を問うものです。ケアの質向上に直結します。わたしたちが行う教育の質についても問いかけます。わたしたちのケアの質向上のために、ぜひ家庭医療の研究に取り組みましょう。

幸いなことに、今回の学術集会では、家庭医療の研究における世界の代表的なエキスパートを5名お招きしてシンポジウムを開催し、さらに参加者のみなさんがエキスパートから直接研究について指導を受けるワークショップを行えることになりました。この企画に賛同し、実現に向け多大なご協力をいただいた英国のBMJ (British Medical Journal) 誌と福島県立医科大学、快く来日してくれるエキスパート5名のみなさん、そして会場を提供していただいた東京大学の関係者各位にお礼を申し上げます。

教育と同様、研究も短時間で成果があがるものではありません。わたしたちのケアの質が向上したかのアウトカムが示されるのは次の世代かもしれません。しかし、今回の学術集会で家庭医療の研究に興味を持った若い学会員のみなさんが、世界の家庭医とネットワークを築き、やがて世界的な研究を日本から発表することを考えると胸が躍ります。Academic family medicineの世界にもミッションを持つことになった者として、こうしたチャンスを提供するお手伝いができることを幸せに思います。

参加者のみなさんそれぞれにとって意味のある学術集会となることを願っています。

さあそれでは、学会場でお会いしましょう！

第23回日本家庭医療学会学術集会・総会 大会長  
福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授

葛西 龍樹

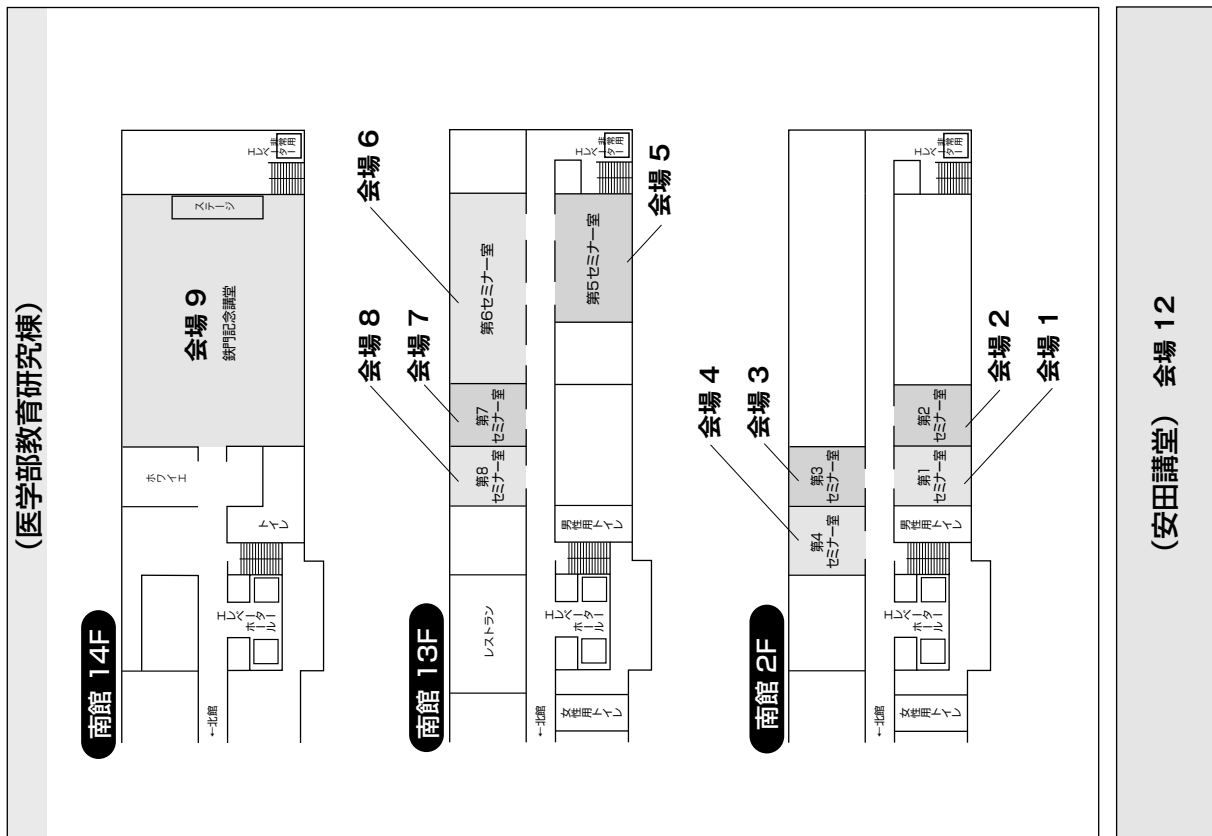
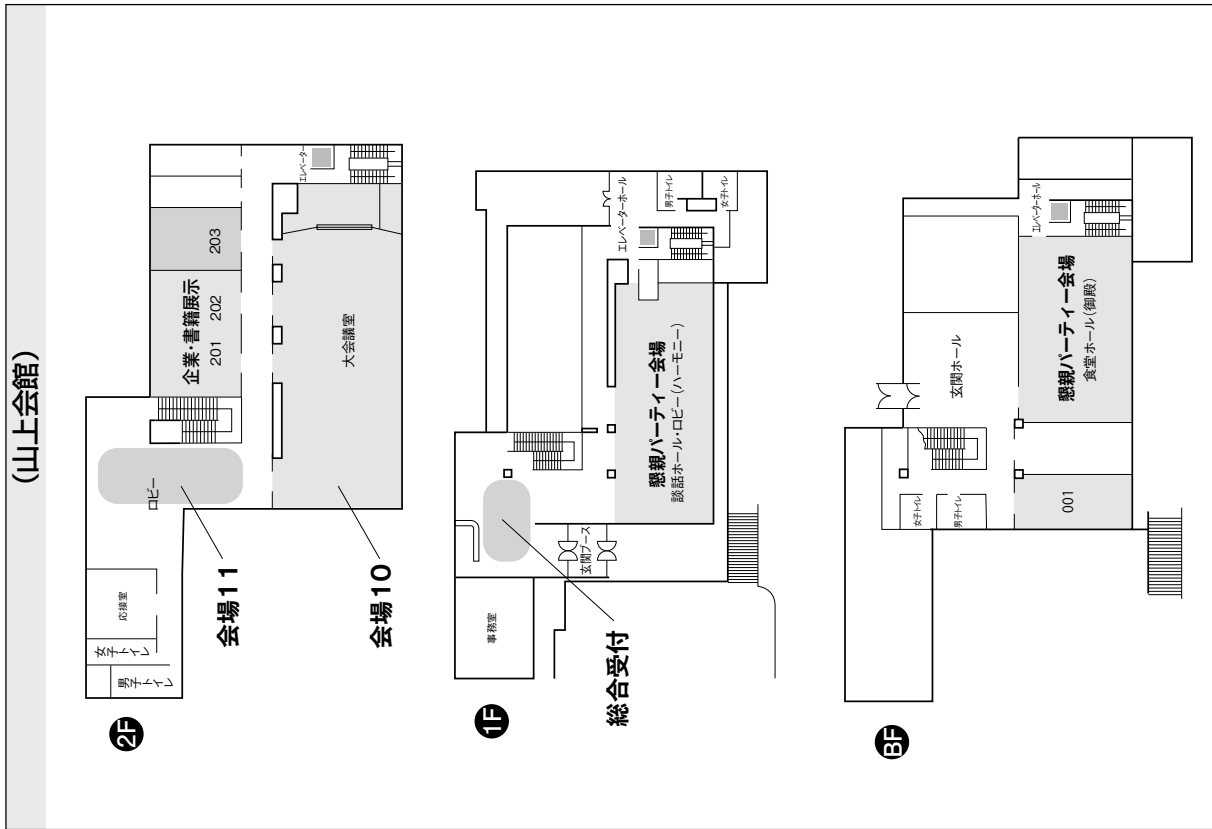
## Declaration of Alma-Ata

International Conference on Primary Health Care, Alma-Ata, USSR, 6-12 September 1978

The International Conference on Primary Health Care, meeting in Alma-Ata this twelfth day of September in the year Nineteen hundred and seventy-eight, expressing the need for urgent action by all governments, all health and development workers, and the world community to protect and promote the health of all the people of the world, hereby makes the following Declaration:

- I. The Conference strongly reaffirms that health, which is a state of complete physical, mental and social well being, and not merely the absence of disease or infirmity, is a fundamental human right and that the attainment of the highest possible level of health is a most important world-wide social goal whose realization requires the action of many other social and economic sectors in addition to the health sector.
- II. The existing gross inequality in the health status of the people particularly between developed and developing countries as well as within countries is politically, socially and economically unacceptable and is, therefore, of common concern to all countries.
- III. Economic and social development, based on a New International Economic Order, is of basic importance to the fullest attainment of health for all and to the reduction of the gap between the health status of the developing and developed countries. The promotion and protection of the health of the people is essential to sustained economic and social development and contributes to a better quality of life and to world peace.
- IV. The people have the right and duty to participate individually and collectively in the planning and implementation of their health care.
- V. Governments have a responsibility for the health of their people which can be fulfilled only by the provision of adequate health and social measures. A main social target of governments, international organizations and the whole world community in the coming decades should be the attainment by all peoples of the world by the year 2000 of a level of health that will permit them to lead a socially and economically productive life. Primary health care is the key to attaining this target as part of development in the spirit of social justice.
- VI. Primary health care is essential health care based on practical, scientifically sound and socially acceptable methods and technology made universally accessible to individuals and families in the community through their full participation and at a cost that the community and country can afford to maintain at every stage of their development in the spirit of self-reliance and self-determination. It forms an integral part both of the country's health system, of which it is the central function and main focus, and of the overall social and economic development of the community. It is the first level of contact of individuals, the family and community with the national health system bringing health care as close as possible to where people live and work, and constitutes the first element of a continuing health care process.
- VII. Primary health care: reflects and evolves from the economic conditions and sociocultural and political characteristics of the country and its communities and is based on the application of the relevant results of social, biomedical and

会場のご案内





1日目 / 5月31日(土)

医学部 教育研究棟									
2 F				13 F				14 F	
会場 1	会場 2	会場 3	会場 4	会場 5	会場 6	会場 7	会場 8	会場 9	
第1セミナー室	第2セミナー室	第3セミナー室	第4セミナー室	第5セミナー室	第6セミナー室	第7セミナー室	第8セミナー室	鉄門記念講堂	
8:00									
9:00							9:00-11:00 リサーチ シンポジウム 打ち合わせ		
10:00									
11:00									
12:00									
13:00	13:00-14:55 WS-11 家族志向のケア 中級編 家族システムの 理解と難しい家族 との面談を中心に	13:00-14:55 WS-12 タイムマネジ メントを磨く	13:00-14:55 WS-13 質的研究を やってみよう ～データ分析 を中心に～	13:00-14:55 WS-14 「活きた」身体 所見を取る方法	13:00-14:30 リサーチシンポジウム 「家庭医療の研究に取り組もう ～わたしたちのケアの質向上のために～」 座長：葛西 龍樹 シンポジスト： Prof Chris van Weel (WONCA会長、オランダ) Prof Chris Del Mar (Bond大学医学部長、オーストラリア) Prof Domhnall MacAuley (BMJプライマリ・ケア部門編集長、英国) Prof Goh Lee Gan (WONCAアジア太平洋地域前会長、シンガポール) Prof Cindy Lam (香港大学家庭医療科主任、中国)			12:30-13:00 開会式	13:00-14:30 リサーチ シンポジウム
14:00									
15:00	15:05-17:00 W-21 地域の設定で いかにして 家庭医療の原理 ACCC を教えるか?	15:05-17:00 W-24 学会発表が 「楽しく!!」なる。 プレゼンの 3つのコツ	15:05-17:00 W-23 Reflectionを Promoteする	15:05-17:00 W-22 在宅ケア・ 地域ケア	15:00-16:00 リサーチWS 1-A	15:00-16:00 リサーチWS 1-B			
16:00						16:00-17:00 Introducing "The Five Weekend Research Program : A Facilitators Workshop" Part 1			
17:00							17:15-17:30 学会賞表彰		
18:00							17:30-18:00 総会 PG認定授与式		
19:00									
20:00									





1日目 / 5月31日(土)

山上会館 (総合受付 1F 10:00~)						安田講堂	
会場 10	会場 11					会場 12	
大会議室	2F ロビー	201・202	203	地階 001	食堂・談話ホール		
							8:00
				9:00-11:00			9:00
				理事会			10:00
							11:00
11:00-12:00 学会賞候補演題発表 座長:伴 信太郎、大西 弘高							11:00
				11:30-12:30			12:00
				倫理委員会			12:00
	12:00-20:00	12:00-20:00	12:00-20:00				13:00
	ポスター掲示(一般)	ポスター掲示(後期研修施設)	企業・書籍展示				14:00
						15:00	
						16:00	
15:00-17:00 一般演題 座長1: 山本 和利、三瀬 順一 座長2: 亀谷 学、岡田 唯男							17:00
							18:00
					18:00-20:00		18:00
					懇親パーティー		19:00
							20:00



2日目 / 6月1日(日)

医学部教育研究棟								
2 F				13 F				14 F
会場 1	会場 2	会場 3	会場 4	会場 5	会場 6	会場 7	会場 8	会場 9
第1セミナー室	第2セミナー室	第3セミナー室	第4セミナー室	第5セミナー室	第6セミナー室	第7セミナー室	第8セミナー室	鉄門記念講堂
8:00								
9:00	9:00-12:00 W-31 思春期と性教育 ～避妊・STD 予防を中心に	9:00-12:00 W-32 How to join / teach プラクティカル EBM カンファレンス	9:00-10:25 W-33 健康寿命をのぼそう ～家庭医にできる 介護予防の介入 と実践～	9:00-10:25 W-34 後期研修医と 語る後期研修	9:00-10:30 リサーチWS 2-A	9:00-10:30 リサーチWS 2-B		
10:00								
11:00		10:35-12:00 W-41 生涯学習ツールとして Significant Event Analysisを導入しよう	10:35-12:00 W-43 構造主義医療の挑戦 :科学的実体としての 疾患と自然言語で語 られる疾患のギャップ		10:30-12:00	10:35-12:00 W-42 Whatcha gonna do on emergency ? こんな救急の時、どうする? ～知って得する救急 のトリビア!?!～		
12:00	12:00-13:00 若手家庭医 部会 総会							
13:00				10:30-12:00 Introducing "The Five Weekend Research Program : A Facilitators Workshop" Part 2				
14:00								
15:00								
16:00								
16:30								

- 理事会 ..... 5/31(土) 9:00-11:00 山上会館地階001
- リサーチシンポジウム打ち合わせ ... 5/31(土) 9:00-11:00 会場8(医・教育研究棟第8セミナー室)
- 倫理委員会 ..... 5/31(土) 11:30-12:30 山上会館201
- 総会 ..... 5/31(土) 17:30-18:00 会場9(鉄門記念講堂)



2日目 / 6月1日(日)

山上会館 (総合受付 1F 8:30~)						安田講堂	
会場 10		会場 11				会場 12	
大会議室		2F ロビー	201・202	203	地階 001	食堂・談話ホール	
							8:00
							9:00
9:00-12:00 一般演題 座長 1： 白浜 雅司、 草場 鉄周 座長 2： 藤沼 康樹、 松下 明 座長 3： 生坂 政臣、 小林 裕幸	9:00-14:00 ポスター掲示(一般)	9:00-14:00 ポスター掲示(後期研修施設)	9:00-14:00 企業・書籍展示				10:00
							11:00
							12:00
							13:00
							14:00
							15:00
							16:00
							16:30

13:00-13:15  
田坂賞

13:15-14:00  
大会長講演  
「日本の家庭医療の課題」  
演者：葛西 龍樹  
司会：山田 隆司

13:15-14:00  
大会長講演

14:00-16:00  
公開シンポジウム  
「リサーチと世界の家庭医療」

14:00-16:00  
公開シンポジウム  
「リサーチと世界の家庭医療」  
座長：山田 隆司、葛西 龍樹、竹村 洋典  
シンポジスト：  
Prof Chris van Weel (WONCA 会長、オランダ)  
Prof Chris Del Mar (Bond 大学医学部長、オーストラリア)  
Prof Domhnall MacAuley (BMJ プライマリ・ケア部門編集長、英国)  
Prof Goh Lee Gan (WONCA アジア太平洋地域前会長、シンガポール)  
Prof Cindy Lam (香港大学家庭医療科主任、中国)

16:00-16:30  
閉会式

## プログラム

1日目 / 5月31日(土)

学会賞候補演題 (口演) (5月31日 11:00 ~ 12:00 / 会場 10 山上会館 大会議室)

座長：伴 信太郎、大西 弘高

**G-01 地域医療実習でのポートフォリオ作成がもたらす家族・地域に関する気づきの研究  
～振り返りシートの枠組みによる気づきの変化～**

八木田 一雄 (札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座)

宮田 靖志 (札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座)

森崎 龍郎 (札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座)

寺田 豊 (札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座)

山本 和利 (札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座)

**G-02 家庭医療後期研修プログラム卒業生は、経営的にも健全に診療所を運営できるか？**

吉本 尚 (奈義ファミリークリニック)

松下 明 (奈義ファミリークリニック)

佐古 篤謙 (奈義ファミリークリニック)

田中 久也 (津山ファミリークリニック)

紺谷 真 (日本原病院)

**G-03 地域密着型小病院における特定保健指導の実際と家庭医のかかわり**

江口 幸士郎 (唐津市民病院きたはた)

大野 每子 (唐津市民病院きたはた)

西川 武彦 (唐津市民病院きたはた)

黄 泰奉 (唐津市民病院きたはた)

江村 正 (佐賀大学付属病院総合診療部)

小泉 俊三 (佐賀大学付属病院総合診療部)

**G-04 医学生は家庭医療コース参加の結果、どのように変わるのか？**

麦谷 歩 (川崎市立多摩病院総合診療科、聖マリアンナ医科大学)

武者 幸樹子 (川崎市立多摩病院総合診療科、聖マリアンナ医科大学)

喜瀬 守人 (川崎市立多摩病院総合診療科、聖マリアンナ医科大学)

亀谷 学 (川崎市立多摩病院総合診療科、聖マリアンナ医科大学)

岡田 唯男 (亀田ファミリークリニック館山)

リサーチ・シンポジウム (5月31日 13:00 ~ 14:30 / 会場 9 鉄門記念講堂)

「家庭医療の研究に取り組もう～わたしたちのケアの質向上のために～」

座長：葛西 龍樹 (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)

シンポジスト：

Prof Chris van Weel (WONCA 会長、オランダ)

Prof Chris Del Mar (Bond 大学医学部長、オーストラリア)

Prof Domhnall MacAuley (BMJ プライマリ・ケア部門編集長、英国)

Prof Goh Lee Gan (WONCA アジア太平洋地域前会長、シンガポール)

Prof Cindy Lam (香港大学家庭医療科主任、中国)



## 公募ワークショップ (13:00 ~ 14:55、15:05 ~ 17:00 / 医学部教育研究棟・セミナー室)

W-11 家族志向のケア中級編 家族システムの理解と難しい家族との面談を中心に  
(13:00 ~ 14:55 / 会場 1)

コーディネーター:

松下 明 (奈義ファミリークリニック)  
佐古 篤謙 (奈義ファミリークリニック)  
吉本 尚 (奈義ファミリークリニック)  
田原 正夫 (奈義ファミリークリニック)

## W-12 タイムマネジメントを磨く

(13:00 ~ 14:55 / 会場 2)

コーディネーター:

朝倉 健太郎 (健生会 大福診療所)  
中川 貴史 (北海道家庭医療学センター 寿都町立寿都診療所)  
八藤 英典 (東北海道家庭医療学センター 本輪西ファミリークリニック)  
岡田 唯男 (鉄焦会 亀田ファミリークリニック 館山)

## W-13 質的研究をやってみよう~データ分析を中心に~

(13:00 ~ 14:55 / 会場 3)

コーディネーター:

錦織 宏 (東京大学医学教育国際協力研究センター)  
大谷 尚 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科学校情報環境学)

## W-14 「活きた」身体所見を取る方法

(13:00 ~ 14:55 / 会場 4)

コーディネーター:

川島 篤志 (市立堺病院総合内科)  
北村 大 (市立堺病院総合内科)

## W-21 地域の設定でいかにして家庭医療の原理 ACCCC を教えるか?

(15:05 ~ 17:00 / 会場 1)

コーディネーター:

吉村 学 (地域医療振興協会 揖斐郡北西部地域医療センター)  
西川 武彦 (唐津市民病院 (きたはた))

## W-22 在宅ケア・地域ケア

(15:05 ~ 17:00 / 会場 4)

コーディネーター:

長 純一 (長野厚生連佐久総合病院地域診療所科・国保川上村診療所)

## W-23 Reflection を Promote する

(15:05 ~ 17:00 / 会場 3)

コーディネーター:

錦織 宏 (東京大学医学教育国際協力研究センター)  
菅野 哲也 (王子生協病院)  
平山 陽子 (王子生協病院)  
藤沼 康樹 (日本生協連医療部会家庭医療学開発センター)

## W-24 学会発表が「楽しく!!」なる. プレゼンの3つのコツ

(15:05 ~ 17:00 / 会場 2)

コーディネーター:

佐藤 健一 (関西リハビリテーション病院)  
斎藤 裕之 (東京医科大学総合診療科)

**一般演題（口演）（15:00～17:00／会場 10 山上会館 大会議室）**

座長：山本 和利、三瀬 順一

**L-01 自施設における日常健康問題とは**

大原 紗矢香（医療法人鉄蕉会亀田ファミリークリニック館山）  
岡田 唯男（医療法人鉄蕉会亀田ファミリークリニック館山）

**L-02 市立奈良病院救急外来における意識障害の鑑別（AIUEOTIPS の頻度は？）**

茨木 利彦（市立奈良病院）  
西村 正大（市立奈良病院）  
山口 恭一（市立奈良病院）  
西尾 博至（市立奈良病院）  
武田 以知郎（市立奈良病院）

**L-03 女性家庭医による乳がん検診**

高松 典子（尼崎医療生協 本田診療所）

**L-04 離島診療所で若手家庭医が小児髄膜炎を診るということ**

徳田 隼人（徳之島診療所）  
中村 太一（徳之島診療所）  
町元 利志（徳之島診療所）  
松本 航（南大島診療所）  
丸山 慎介（鹿児島県立大島病院小児科）  
酒井 勲（鹿児島生協病院小児科）

**L-05 地域における“もの忘れ外来”の実践**

夏目 寿彦（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座、北海道むかわ町国保穂別診療所）  
宮田 靖志（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座）  
一木 崇宏（北海道むかわ町国保穂別診療所）  
山本 和利（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座）

座長：亀谷 学、岡田 唯男

**L-06 地域診療所を受診する2型糖尿病患者における治療中断分析と対策**

田頭 弘子（Manchester Business School, The University of Manchester, UK）

**L-07 離島診療所における家庭医療研修**

中村 太一（徳之島診療所）  
町元 利志（徳之島診療所）  
徳田 隼人（徳之島診療所）  
樫田 祐一（奄美中央病院）  
永吉 清勝（奄美中央病院）  
津田 司（三重大学医学部家庭医療学講座）

**L-08 デルファイ法を用いた地域健康ニーズの把握**

寺田 豊（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座）  
宮田 靖志（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座）  
森崎 龍郎（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座）  
八木田 一雄（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座）  
山本 和利（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座）



L-09 「王子生協病院家庭医外来プロジェクト」第1報

- 菅野 哲也 (東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院 地域総合内科)  
平山 陽子 (東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院 地域総合内科)  
本村 和久 (東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院 地域総合内科)  
深山 春海 (東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院 外来看護師長)  
三浦 扶佐 (東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院 外来医事課)  
藤沼 康樹 (東京ほくと医療生活協同組合 生協浮間診療所/日生協医療部会家庭医療学開発センター)

L-10 冬期セミナーの今後～若手家庭医たちのニーズ～

- 朝倉 健太郎 (健生会 大福診療所)  
飛松 正樹 (三重県立一志病院)  
森永 太輔 (みなと医療生協 みなと診療所)  
北村 大 (市立堺病院 総合内科)

リサーチ・ワークショップ(15:00～17:00/医学部教育研究棟セミナー室)

1-A (15:00～17:00/会場5)

1-B (15:00～17:00/会場6)

Introducing "The Five Weekend Research Program: A Facilitators Workshop" Part 1

(16:00～17:00/会場6)

※ 内容と進行については当日配布される案内をご参照下さい

一般演題 (ポスター) (会場 10 山上会館 大会議室)

P-01 「心肺蘇生に関する事前指示について」の臨床倫理ワークショップ報告

- 本村 和久 (王子生協病院)  
菅野 哲也 (王子生協病院)  
平山 陽子 (王子生協病院)  
河合 由紀 (王子生協病院)  
金子 春香 (福島県立医科大学)

P-02 初期研修医が在宅見取り症例の経験から学んだこと

- 平塚 祐介 (あおもり協立病院)  
原 徹 (中部クリニック)  
坂戸 慶一郎 (あおもり協立病院)  
横田 祐介 (あおもり協立病院)  
西脇 洋子 (あおもり協立病院)  
柏村 英明 (あおもり協立病院)

P-03 OCSIA の医療面接学習～ SP との interaction ～

- 西口 潤 (岡山大学医学部医学科4年)  
湯口 賢 (岡山大学医学部医学科4年)  
市川 愛育 (岡山大学医学部医学科4年)

- 小林 蓉子（岡山大学医学部医学科 4年）  
 光田 栄子（岡山大学医学部医学科 1年）  
 前川 沙音里（岡山大学歯学部 4年）  
 永井 義浩（岡山大学医学部医学科 4年）  
 芹田 陽一郎（岡山大学医学部医学科 3年）  
 山本 美香子（岡山大学医学部保健学科看護専攻 1年）

**P-04 総合診療後期研修医が病棟から在宅往診まで継続的に診療することで繰り返す糖尿病性ケトアシドーシスを予防できている一症例**

- 高橋 世（北海道勤医協中央病院）  
 佐藤 健太（北海道勤医協中央病院）  
 松浦 武志（北海道勤医協中央病院）  
 臺野 巧（北海道勤医協中央病院）  
 尾形 和泰（北海道勤医協中央病院）

**P-05 地域に対する健康教室・患者教育のニーズと有用性の検討**

～亀田 家庭医診療科の取り組みを通じて～

- 小宮山 学（亀田ファミリークリニック館山）  
 岡田 唯男（亀田ファミリークリニック館山）

**P-06 ウェスタンオンタリオ大学・家庭医療学マスターコースの紹介**

- 西村 真紀（川崎医療生協・あさお診療所）  
 草場 鉄周（北海道家庭医療学センター）

**学会認定家庭医療後期研修プログラム紹介（ポスター）（会場 11 山上会館 2F ロビー）**

- S-01 済生会宇都宮病院 家庭医後期研修コース  
 S-02 徳洲会奄美家庭医療学後期研修プログラム  
 S-03 青森県民主医療機関連合会 家庭医療後期研修プログラム  
 S-04 王子生協病院 家庭医プログラム「ほくと」  
 S-05 奈義ファミリークリニック・津山中央病院 家庭医療後期研修プログラム  
 S-06 河北総合病院／東京・杉並家庭医療学センター 家庭医後期研修プログラム  
 S-07 みさと健和病院・柳原病院 家庭医療学後期研修プログラム  
 ～地域に必要とされる保健・医療・福祉で活躍する医師として：地域基盤型家庭医になるために～  
 S-08 大阪民医連家庭医後期研修プログラム「なごみ」  
 S-09 山梨民医連甲府共立病院群家庭医療プログラム  
 S-10 勤医協札幌病院・勤医協中央病院家庭医療後期研修プログラム  
 S-11 医療生協家庭医療学レジデンシー・東京  
 S-12 社団法人地域医療振興協会シニアプログラム「地域医療のススメ」  
 S-13 盛岡医療生協家庭医療後期研修プログラム  
 S-14 佐久間病院家庭医療研修プログラム  
 S-15 船橋二和病院／ふさのくに家庭医療センター 家庭医・診療所シニア研修プログラム  
 S-16 長野厚生連佐久総合病院地域医療部地域診療所コース  
 S-17 筑波大学附属病院 総合医コース  
 S-18 福井県家庭医コース（診療所コース）  
 S-19 公立長生病院×地域医療振興協会 家庭医療シニアプログラム





- S-20 医療法人鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山 (KFCT) 家庭医後期専門研修プログラム
- S-21 京都家庭医療学センター後期研修プログラム
- S-22 出雲市民病院家庭医療後期研修プログラム
- S-23 NPO 法人北海道プライマリ・ケアネットワーク 後期研修プログラム「ニポポ」
- S-24 平戸・北松家庭医療コース
- S-25 川崎市立多摩病院における家庭医療後期研修
- S-26 奈良民医連 家庭医療後期研修プログラム
- S-27 日本生協連医療部会後期研修プログラム・東海 (略称 医療生協家庭医療学レジデンシー・東海)
- S-28 立川相互病院家庭医コースプログラム
- S-29 福島県立医科大学 地域・家庭医療部 家庭医療学専門医コース
- S-30 三重大学家庭医療学プログラム
- S-31 兵庫民医連 家庭医療後期研修プログラム 阪神コース
- S-32 医療法人 北海道家庭医療学センター 家庭医療学専門医コース
- S-33 庄内家庭医養成後期研修プログラム
- S-34 愛媛医療生協家庭医療後期研修プログラム
- S-35 東庄病院地域医療後期研修プログラム
- S-36 千葉県立病院群 総合医家庭医養成プログラム「わかしお」
- S-37 自治医科大学地域医療後期研修プログラム
- S-38 大分大学後期研修プログラム—家庭医療学コース—
- S-39 名古屋大学医学部附属病院総合診療部 ジェネラリスト専門医・指導医養成コース
- S-40 大阪医療生協グループ家庭医療学後期研修プログラム

## 2日目／6月1日(日)

公募ワークショップ(9:00～10:25、10:35～12:00、一部9:00～12:00／医学部教育研究棟・セミナー室)

- W-31 思春期と性教育～避妊・STD 予防を中心に  
(9:00～12:00／会場1)  
コーディネーター：  
稲田 美紀 (三重大学医学部附属病院 総合診療部)  
横谷 省治 (三重大学医学部附属病院 総合診療部)
- W-32 How to join / teach プラクティカル EBM カンファレンス  
(9:00～12:00／会場2)  
コーディネーター：  
古谷 伸之 (東京慈恵会医科大学附属柏病院内科総合診療部)  
柳内 秀勝 (東京慈恵会医科大学附属柏病院内科総合診療部)  
江村 正 (佐賀大学卒後期臨床研修センター)  
伊藤 公美恵 (東京慈恵会医科大学附属柏病院内科総合診療部)  
多田 紀夫 (東京慈恵会医科大学附属柏病院内科総合診療部)
- W-33 健康寿命をのばそう！～家庭医にできる介護予防の介入と実践～  
(9:00～10:25／会場3)  
コーディネーター：  
中村 明澄 (筑波大学附属病院総合診療科、筑波大学医学群 PCME 室)  
堤 円香 (筑波大学医学群 PCME 室)  
阪本 直人 (筑波大学附属病院総合診療科)  
前野 哲博 (筑波大学附属病院総合診療科、筑波大学医学群 PCME 室)

## W-34 後期研修医と語る後期研修

(9:00 ~ 10:25 / 会場 4)

コーディネーター:

喜瀬 守人 (川崎市立多摩病院、聖マリアンナ医科大学)

麦谷 歩 (川崎市立多摩病院、聖マリアンナ医科大学)

森 敬良 (尼崎医療生活協同組合 / 兵庫民医連家庭医療学センター)

田頭 弘子 (MSc Healthcare Management, Manchester Business School, The University of Manchester)

## W-41 生涯学習ツールとして Significant Event Analysis を導入しよう

(10:35 ~ 12:00 / 会場 3)

コーディネーター:

宮田 靖志 (札幌医大地域医療総合医学講座)

寺田 豊 (札幌医大地域医療総合医学講座)

森崎 龍郎 (札幌医大地域医療総合医学講座)

夏目 寿彦 (札幌医大地域医療総合医学講座)

八木田 一雄 (松前町立松前病院)

## W-42 Whatcha gonna do on emergency? こんな救急の時、どうする?

～知って得する救急のトリビア!?!～

(10:35 ~ 12:00 / 会場 7)

コーディネーター:

林 寛之 (福井県立病院)

森 祐樹 (池田診療所)

川城 麻理 (ケアセンターいぶき)

堀田 敏弘 (大阪医科大学)

## W-43 構造主義医療の挑戦：科学的実体としての疾患と自然言語で語られる疾患のギャップ

(10:35 ~ 12:00 / 会場 4)

コーディネーター:

名郷 直樹 (社団法人地域医療振興協会地域医療研修センター)

福士 元春 (社団法人地域医療振興協会地域医療研修センター)

八森 淳 (社団法人地域医療振興協会地域医療研修センター)

船越 樹 (社団法人地域医療振興協会地域医療研修センター)

桐ヶ谷 大淳 (田子診療所)

## 一般演題 (口演) (9:00 ~ 12:00 / 会場 10 山上会館 大会議室)

座長: 白浜 雅司、草場 鉄周

## L-11 嚥下障害患者の摂食時評価と誤嚥性肺炎との関連についての検討

浮田 昭彦 (盛岡医療生活協同組合川久保病院)

## L-12 総合診療外来における advance directive の得られ方の分析

岩田 健太郎 (神戸大学 感染症内科)

## L-13 最期まで住み慣れた家で過ごすためには～当院における在宅での看取りの経験を通して～

志村 直子 (御坂共立診療所)

郭 友輝 (武川診療所)

遠藤 武男 (巨摩共立病院)

金子 さき子 (甲府共立病院)

**L-14 武川診療所における往診患者の現状**

郭 友輝 (武川診療所)  
志村 直子 (御坂共立診療所)  
遠藤 武男 (巨摩共立病院)  
金子 さき子 (甲府共立病院)

**L-15 総合病院の在宅診療への総合診療部後期研修医の関わり**

佐藤 健太 (北海道勤医協中央病院)  
高橋 世 (北海道勤医協中央病院)  
松浦 武志 (北海道勤医協中央病院)  
臺野 巧 (北海道勤医協中央病院)  
尾形 和泰 (北海道勤医協中央病院)

座長：藤沼 康樹、松下 明

**L-16 診療所における糖尿病診療改善の試み (介入研究)**

室谷 智子 (公立黒川病院内科)  
松村 真司 (松村医院)  
大野 每子 (唐津市民病院きたはた)  
村山 慎一 (東京ほくと医療生協王子生協病院)  
春田 淳志 (東京ほくと医療生協王子生協病院)  
櫛笥 永晴 (川崎市立多摩病院)

**L-17 栄養療法による症例報告**

宮島 賢也 (ナチュラルクリニック代々木)

**L-18 家庭内暴力をうけていた訪問診療患者のアセスメントに  
訪問栄養指導など多職種からの情報が有用であった 1 例**

今永 光彦 (国立病院機構東埼玉病院総合診療科)  
木村 琢磨 (国立病院機構東埼玉病院総合診療科)  
清河 宏倫 (国立病院機構東埼玉病院総合診療科)  
斎藤 成 (国立病院機構東埼玉病院総合診療科)  
斎藤 雄之 (国立病院機構東埼玉病院総合診療科)  
宮内 真弓 (国立病院機構東埼玉病院栄養管理室)  
青木 誠 (国立病院機構東埼玉病院総合診療科)

**L-19 慢性期の在宅診療中の患者に導入した入院リハビリテーションで、ADL の改善を認めた一例**

木村 琢磨 (国立病院機構東埼玉病院 総合診療科)  
今永 光彦 (国立病院機構東埼玉病院 総合診療科)  
清河 宏倫 (国立病院機構東埼玉病院 総合診療科)  
齋藤 成 (国立病院機構東埼玉病院 総合診療科)  
齋藤 雄之 (国立病院機構東埼玉病院 総合診療科)  
白井 幹子 (国立病院機構東埼玉病院 リハビリテーション科)  
高橋 宣成 (国立病院機構東埼玉病院 リハビリテーション科)  
大塚 友吉 (国立病院機構東埼玉病院 リハビリテーション科)  
青木 誠 (国立病院機構東埼玉病院 総合診療科)

**L-20 上腸管膜動脈解離、腹腔動脈解離の 2 症例**

菅ヶ谷 純一 (筑波メディカルセンター病院 総合診療科)  
鈴木 将玄 (筑波メディカルセンター病院 総合診療科)  
阿竹 茂 (筑波メディカルセンター病院 救急診療科)  
河野 元嗣 (筑波メディカルセンター病院 救急診療科)

座長：生坂 政臣、小林 裕幸

**L-21 当院における家庭医のための小児科研修**

小堀 勝充 (埼玉協同病院小児科)  
荒熊 智弘 (埼玉協同病院小児科)  
平澤 薫 (埼玉協同病院小児科)  
藤田 康幸 (埼玉協同病院小児科)  
和泉 桂子 (埼玉協同病院小児科)  
渡邊 隆将 (医療生協家庭医療学レジデンシー・東京)  
齋木 啓子 (医療生協家庭医療学レジデンシー・東京)

**L-22 「航空機内医療」のレクチャーに取り組んでみました。やってみて分かった課題と重要性**

佐藤 健一 (関西リハビリテーション病院)

**L-23 平戸における長崎大学へき地病院再生支援・教育機構の取り組み (第2報)**

中桶 了太 (長崎大学医学部・歯学部附属病院 へき地病院再生支援・教育機構)  
浜田 久之 (国立病院機構 長崎医療センター 臨床教育センター)  
河越 なぎさ (長崎大学医学部・歯学部附属病院 へき地病院再生支援・教育機構)  
佐藤 克也 (長崎大学医学部・歯学部附属病院 へき地病院再生支援・教育機構)  
調 漸 (長崎大学医学部・歯学部附属病院 へき地病院再生支援・教育機構)

**L-24 地域における医学教育 (高知大学医学部家庭医道場) の取り組み**

阿波谷 敏英 (高知大学医学部家庭医療学講座)  
田能 妙 (高知大学医学部家庭医療学講座)  
浅羽 宏一 (高知大学医学部附属病院総合診療部)  
桐野 智江 (高知大学医学部医学科学生)  
仲村 尚司 (高知大学医学部医学科学生)  
寺菌 小百合 (高知大学医学部医学科学生)  
稲岡 雄太 (高知大学医学部医学科学生)  
濱口 政也 (高知大学医学部医学科学生)  
中屋敷 美恵 (高知大学医学部看護科学生)

**L-25 家庭医が担う総合診療科はどのように認識されているのか  
～川崎市立多摩病院におけるアンケート調査からみえること～**

大橋 博樹 (川崎市立多摩病院総合診療科)  
武者 幸樹子 (川崎市立多摩病院総合診療科)  
麦谷 歩 (川崎市立多摩病院総合診療科)  
喜瀬 守人 (川崎市立多摩病院総合診療科)  
田所 浩 (川崎市立多摩病院総合診療科)  
亀谷 学 (川崎市立多摩病院総合診療科)

**L-26 研修医が診療所で得た学び・気づき**

野村 理 (健生病院)  
竹内 一仁 (健生病院)  
今 智矢 (健生病院)  
坂戸慶一郎 (あおもり協立病院)



リサーチ・ワークショップ(9:00～12:00／医学部教育研究棟セミナー室)

2-A (9:00～12:00／会場6)

2-B (9:00～12:00／会場5)

Introducing "The Five Weekend Research Program: A Facilitators Workshop" Part 2  
(10:30～12:00／会場6)

※ 内容と進行については当日配布される案内をご参照下さい

大会長講演 (13:15～14:00／会場12 安田講堂)

「日本の家庭医療の課題」

演者：葛西 龍樹 (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)

司会：山田 隆司 (社団法人地域医療振興協会)

公開シンポジウム (14:00～16:00／会場12 安田講堂)

「リサーチと世界の家庭医療」

座長：葛西 龍樹 (福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部教授)

シンポジスト：

Prof Chris van Weel (WONCA 会長、オランダ)

Prof Chris Del Mar (Bond 大学医学部長、オーストラリア)

Prof Domhnall MacAuley (BMJ プライマリ・ケア部門編集長、英国)

Prof Goh Lee Gan (WONCA アジア太平洋地域前会長、シンガポール)

Prof Cindy Lam (香港大学家庭医療科主任、中国)

## 役員選挙開票結果

平成20年4月24日に開票されました役員選挙の結果、  
役員（任期：平成20年7月1日～平成22年6月30日）に以下の方々が  
選出されましたので、ご報告申し上げます。

有権者数：1711名  
投票総数(1人5票まで)：2180票  
白票数：338票  
無効票数：4票

内山 富士雄（内山クリニック）  
大西 弘高（東京大学医学教育国際協力研究センター）  
葛西 龍樹（福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療部）  
亀谷 学（川崎市立多摩病院）  
草場 鉄周（医療法人母恋 北海道家庭医療学センター）  
白浜 雅司（佐賀市立国民健康保険三瀬診療所）  
竹村 洋典（三重大学医学部附属病院総合診療部）  
長 純一（佐久総合病院地域医療部 地域診療所科 地域ケア科）  
西村 真紀（あさお診療所）  
伴 信太郎（名古屋大学医学部附属病院総合診療部）  
藤沼 康樹（日本生協連医療部会家庭医療学開発センター・生協浮間診療所）  
前野 哲博（筑波大学附属病院 卒後臨床研修部）  
松下 明（奈義ファミリークリニック）  
山田 隆司（社団法人 地域医療振興協会）  
山本 和利（札幌医科大学地域医療総合医学講座）

## 若手家庭医部会の皆様

第3期若手家庭医部会選挙管理委員の大橋です。

先日の選挙ではたくさんの方々に投票して頂き、ありがとうございました。

4月24日、地域医療振興協会事務局におきまして、開票作業を行いました。

以下に結果をお知らせ致します。

投票総数 92 票

### 〈代表〉

八藤 英典氏 40 票

朝倉 健太郎氏 50 票

白票 2 票

以上より、代表には朝倉 健太郎氏が選出されました。

### 〈副代表〉

朝倉氏代表選出に伴い、以下の2名の方々の信任投票となりました。

八藤 英典氏 信任 63 票 不信任 11 票

横林 賢一氏 信任 84 票 不信任 5 票

以上より、八藤氏、横林氏どちらも副代表に選出されました。

3名の方々、おめでとうございます。

新代表の任期は平成20年7月1日からとなります。

新役員を応援していきましょう。

第3期若手家庭医部会選挙管理委員会 大橋 博樹



## 第20回 医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー

日 時：2008年8月9日(土)～11日(月) 2泊3日

場 所：セミナー会場・宿泊 シャトーテルー本杉

〒949-6402 新潟県南魚沼市吉里 TEL：025-782-1191

テーマ：『絆』

対 象：医学生（全学年）、研修医（原則5年目まで）

参加費：学生 学会員 18,000 円／非学会員 22,000 円

医師 学会員 26,000 円／非学会員 30,000 円

※ 参加費には食費、宿泊費、懇親会費が含まれています。

定 員：160 名

申込方法（申込締切：7月11日）

1. 申し込み受付サイトを開き、インターネット予約の「参加登録」のページから必要事項を入力・送信してください。

申し込み受付サイト <https://apollon.nta.co.jp/familymed09-jr/>

※ その際、必ずアンケートの記入をお願いいたします。

2. インターネット予約の「お支払い」のページからお支払方法を選択・入金を行ってください。

お支払方法は、

- (1) 銀行振込
- (2) クレジットカードによるオンライン決済
- (3) クレジットカード情報をFAXして後日引き落とし

の3つからお選びいただけます。

### ◆ 銀行振込の場合

ご請求金額を下記口座までお振り込み下さい。送金手数料はお客様のご負担でお願い申し上げます。

お振込先：みずほコーポレート銀行十五号支店

口 座：普通 3101942

口 座 名：株式会社 日本旅行 カ) ニホンリョコウ

3. 入金確認をもって申し込み成立となります。ご登録後に発信される確認メールにお支払い期日の記載がございます。期日までにお支払いの手続きをお済ませくださいますようお願い申し上げます。

※ キャンセルについて

申し込み受付サイトを開き、インターネット予約の「予約確認・変更」のページからキャンセルを行ってください。申し込み受付サイトにてお申込みをされた段階で仮受付となるため、ご入金がない場合でも取消し日によっては取消料が発生いたします。ご注意ください。



問合せ先：

◆ 申し込み・宿泊関連の問い合わせ

株式会社日本旅行イベント・コンベンション営業部

MCS センター「第 20 回医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー」デスク

〒 104-0061 東京都中央区銀座 7-13-10 日本興亜銀座ビル 5 階

TEL: 03-5565-9890 FAX: 03-5565-9611

e-mail : mcs\_inq05@nta.co.jp

担当 : 境田、張 (チャン)

営業時間 平日 09:30 ~ 17:30 (土・日・祝日は休業)

◆ セミナー内容・その他の問い合わせ

e-mail : familymed\_08seminar@yahoo.co.jp

内 容：詳細については、日本家庭医療学会学生・研修医部会のページをご覧ください

URL <http://family-s.umin.ac.jp/>

**1日目:8月9日(土) テーマ：『起』**

■ 講演会

「梅とお茶の郷のじいさんとの物語 田舎の診療所の家庭医がしていること」

藤原 靖士 先生 (奈良市立月ヶ瀬診療所)

「大学ではどのように地域医療を担う医師を養成していくのか」

藤崎 和彦 先生 (岐阜大学医学部医学教育開発研究センター (MEDC))

■ 学生活動紹介

全国で行われている勉強会・サークルの紹介

■ Meet the experts

家庭医学の各分野における expert の先生方との交流の時間です。

■ 懇親会

**2日目:8月10日(日) テーマ：『化』**

■ セッション (選択制)

低学年から高学年、研修医まで楽しめる 15 のセッションを準備しています。家庭医に必要な基本的臨床技能から、毎日の外来で役立つ応用的な臨床技能まで盛りだくさんです。

■ ポスターセッション

全国の研修プログラムの紹介

■ 懇親会

**3日目:8月11日(月) テーマ：『継』**

■ セッション (選択制)

2 日間のセミナーで生じた疑問や不安を経験豊かな講師の先生と同じ志を持つ仲間と解消しましょう。

家庭医を目指す参加者の皆さんに、未来展望を広げる 4 つのセッションを準備しています。

■ 最終講演

「夏期セミナーのこれまでと今後の展望」

前野 哲博 先生 (筑波大学病院 総合臨床教育センター／総合診療科)

## 日本家庭医療学会 サテライトワークショップ in 広島

昨秋、大阪（天満研修センター）にて恒例の第15回家庭医の生涯教育のためのワークショップが開催されました。毎年大変好評のこのワークショップでは、参加応募希望にも関わらず定員に達したため断念された会員・非会員が数多くいらっしゃいます。学会へは年間複数回の開催のご要望、他地域での開催のご希望の声が多数寄せられています。そこで今回初めて広島にて人気講座をアソコールしていただくことになりました。同時に新しい講座も加わっております。どうぞご期待下さい。

■日時：2008年9月21日(日) 午前9時～午後3時

■場所：**広仁会館**（広島大学霞キャンパス内。JR 広島駅よりバスで約20分）  
広島市南区霞 1-2-3

■スケジュール

	会議室 A	会議室 B
午前1 ( 9:00 - 10:30)	岸本(1)	名 郷
午前2 (10:50 - 12:20)	守 屋	岸本(2)
午 後 (13:20 - 14:50)	佐 藤	一 瀬

■講師とタイトル

岸本暢将氏（亀田総合病院 リウマチ膠原病内科）

タイトル：(1) プライマリケアのための関節リウマチ診療  
～これだけは診よう Hands-On セッション～  
(2) 目で見えるリウマチ膠原病～一発診断～

名郷直樹氏（東京北社会保険病院 臨床研修センター）

タイトル：「その場にならないと何をやるかわからない EBM 講座」

守屋章成氏（医療法人 地域医療ぎふ シティ・タワー診療所）

タイトル：素人漢方 家庭医和漢

佐藤健一氏（関西リハビリテーション病院）

タイトル：知ってほしい！！航空機内での急病人に対する医療体制  
～日々の診療に役立つ疾患への知識も～

一瀬直日氏（赤穂市民病院）

タイトル：「家庭医ならどうする？ 停電、水害から在宅患者を守るために」

■参加募集

定員 約100名

後日、応募登録時期についてホームページなどで広報いたします。

登録完了には参加費納入を要します。

生涯教育委員会 一瀬直日

## 平成 19 年度 日本家庭医療学会 研究補助金 選考結果のお知らせ

平成 19 年度 日本家庭医療学会 研究補助金交付申請につきまして、今回は 5 名の応募がありました。

研究補助金交付者の選考につきまして、いろいろな角度から慎重に審議を重ねました結果、下記の 3 名に決定いたしましたのでお知らせいたします。

### 「世界の家庭医療の研究とは？－質的および量的研究を用いて－」

竹村 洋典 様 (三重大学大学院医学系研究科・家庭医療学)

### 「高齢男性の引きこもり予防に関する質的研究」

松下 明 様 (奈義ファミリークリニック)

### 「在宅での看取りを体験した家族の在宅医療および介護への視点」

池澤 裕弘 様 (福井大学医学部附属病院 総合診療部)

## 平成 20 年度 日本家庭医療学会 後期研修プログラムの本認定について

平成 20 年度 後期研修プログラムの本認定申請は、期日までに 17 施設からの申請がございました。

当学会役員によるプログラム審査の結果、下記 15 施設が本認定されました。

また、第 23 回日本家庭医療学会学術集会の会期中に、平成 20 年度後期研修プログラム本認定の認定証授与式を行います。

(日時:2008年5月31日(土)17時30分～/会場:東京大学 鉄門記念講堂)

### 平成 20 年度本認定後期研修プログラム一覧

留萌家庭医療後期研修プログラム

香取地区総合医家庭医養成プログラム「水郷」

大分大学後期研修プログラム—家庭医療学コース—

石川民医連後期研修プログラム 家庭医・プライマリケア医養成コース

山梨民医連甲府共立病院群家庭医療プログラム

佐久間病院家庭医療研修プログラム

市立池田病院家庭医療後期研修プログラム

飯塚・穎田家庭医療プログラム

聖隷浜松病院家庭医療研修プログラム

国保国吉病院 総合医・家庭医養成プログラム「外房」

大阪医療生協グループ家庭医療学後期研修プログラム

東庄病院地域医療後期研修プログラム

公立長生病院×地域医療振興協会 家庭医療シニアプログラム

医療法人 北海道家庭医療学センター 家庭医療学専門医コース

済生会宇都宮病院家庭医研修プログラム



## 都会の中の家庭医

東京・杉並家庭医療学センター  
一戸 由美子

### 東京都杉並区というところ

当センターは医療法人財団 河北総合病院より徒歩4分、走って1, 2分のところに位置する5階建ての河北サテライトクリニック内にあります。河北サテライトクリニックのある杉並区阿佐ヶ谷は、JR中央線沿いにあり、新宿より約10分程度の都心部に位置しています。人口は53万人で、23区でも古くから住宅地として開けた土地です。そのためか、古い家並みも残っており、一方では、閑静な住宅地、著名人が住む高級住宅地もあり、まさにいろいろな人々が集まり住む、「東京」を感じさせます。電車で数駅行くと、東京女子医科大学、順天堂大学、東京医科歯科大学、慶応義塾大学などそうそうたる大学病院が顔を連ねており、これらは二次保健医療圏であり、杉並区住民の救急搬送先ともなっています。最先端の医療はいつも、ここ東京から生まれ地域へと発信され、地方の方もまた、わざわざ有名な病院の治療を求め上京して来ます。

プライマリ・ケアは？プライマリ医療も、ここ東京に特有な形で存在しています。杉並区だけでみると、現在181もの診療所があります。〇〇シティクリニックや、きれいなビル内にあるおしゃれで都会的なクリニックも存在しており、多くのクリニックが〇〇大学病院連携診療所のようなフレーズを掲げています。こうして視ると、東京にはおびただしいほどの専門医集団、それも超専門医がいて、彼ら彼女たちを中心に医療提供が長い間なされてきたようにも思います。むろん、日本の首都、東京が医学界への貢献として期待なされてきたのが、教育、特にエキスパートとしての医学教育と育成であったことを考えると当然の結果なのかもしれません。

### 外来診療にて

家庭医療科に来院される初診患者さんのほとんどは、実は初診ではないことが多いのです。「風邪」1つをとっても、近医の「〇〇医院に行ったらよくなる」、あるいは「高血圧で〇〇診療所に通っているけれど具合がよくなって」、「かかりつけ医にみてもらっているけど、××が心配で」「〇〇大学病院に通っているけど、セカンドオピニオンが聞きたくて」など、さまざまな医療機関を経た後に来院される方が多いことには驚かされます。また、当クリニックは河北総合病院へ来院される新患・初診患者を診ており、地域の診療所に来院される患者層よりやや重症な患者を扱うことが多く、慢性疾患から心筋梗塞、脳梗塞、消化管出血など多様な患者層を専門医との連携のもとに診断・治療を経験することができ、クリニックの立地条件が臨床家としての能力を養う機会を増大させているようです。

東京らしいと思うのは、「△△大学病院に通っていたけど、電車に乗って通院するのがもう大変になってしまったの」や、「〇〇大学へ行ってたけれど、もう治療方法がないと言われたから」などと語り、当センターの外来通院や在宅緩和ケアを望んで来られる高齢者も多くみられるということです。交通網が発達している都会では、医療圏、そして他のサービス圏においても、「地域」というバウンダリーが明瞭でないことが多いのですが、年齢を経ると、「自分たちの本来の地域」に戻ってくるものだということを実感させられます。

患者の情報量・情報収集力は高く、医療に対する要求度も高いということは、老若男女を問わず言えるようです。糖尿病ひとつをとっても、我々が継続して診ていくためには、他の医療者、時には大学病院、糖尿病専門クリニックなどに秀でているところが無ければ、我々を選びません。Generalistとしての知識と技量、そして家庭医として接する能力を持ち合わせていなければ、我々を主治医として認識しないのでしょうか。家庭医の臨床能力、コミュニケーションスキルをきびしく評価し、家庭医としての専門性を真っ

向から問うのはいつも患者なのだと感じさせられます。

### 訪問診療にて

当センターでは、半径2km以内を訪問診療の診療圏としています。自転車で走れば、10分ちょっとでもう2km。しかし、この領域に住む人々の数は、なんと15万人です。住宅地では、救急車も進入できないほどの細い小路がたくさんあり、担架が通るかどうか心配なくらいの狭い階段をのぼって、小さなお宅に行き着きます。小さな部屋では、家族がひしめき合って生活していて、都会で暮らすこと、「在宅療養」のためのスペースを確保することなどの難しさを感じるときもあります。

全ての急性期病院と同様に、河北総合病院をはじめ、東京の病院の在院日数はかなり短く徹底されています。出来る限り多くの患者に適切な急性期医療を提供するために、在院日数を短く、ベッドの回転率をあげるようにしています。よって、在宅療養のために戻ってくる患者さんには、比較的重症な方もみられ、医療依存度の高い方もおられます。ことに杉並区では、療養型病院も少なく、医療処置の多い患者さんやターミナルケースも多く、在宅医療の需用が高く、維持期、ときには回復期を担う医療現場としての役割が期待されています。

また、核家族化・少子化が進んでいるのも都会の特徴であり、二人暮らしの高齢者、独居老人が多い中、「生活を支える在宅医療」の実践が常に求められます。看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーなどのコメディカルによるサー

ビス体系・専門性も早くから発達を遂げました。そして医療・看護・介護・社会福祉が一体となり、在宅ケアチームとして活動しています。協働する際、医師は患者・家族の状況を熟慮した医学的見解を明示しながら、多職種間でのパートナーシップを保たなければなりません。患者の病気だけでなく、患者の生活や家族をも視野に入れた医療の実践を専門性の一つとしている家庭医の役割は大きく、やりがいを感じさせられています。

### おわりに

都会の中の家庭医であるということ。周りには、専門をきわめた医師がごまんといます。また、専門性の高いコメディカルの存在、そして何より厳しい評価の目をもった患者が存在します。医療者として甘えを許さない環境に身を置くことは、臨床家としての力量、そして医師としての成長を多いに高めてくれていると実感しています。

家庭医であるということ。人は、人とのかわり、関係性の中でさまざまなことを学び、また自分の存在意義や喜び、哀しみなどを感じ成長していきます。私は、医師という職業を通して、この成長を感じ、また是に向かっているのだと日々感じています。家庭医は、細胞のレベルから病い、そして人、家族、社会までをみることを専門として、いつもそれらに気をかけながらバランスをとって診療に望みます。お互いに人としてより豊かな結びつきを築き上げ、その人間関係の中で医療をおこなえる一人の医師であると思えたとき、家庭医であることの喜びと感謝を感じます。

# 「生涯学習 (CME) に役立つツール」特集



三重大学医学部附属病院総合診療部

横谷 省治

今回は趣を変えて文献検索ツールをご紹介します。と言っても、皆様おなじみの Google です。

日常診療の中で、「この疾患はどのように診ていったらいいのだろうか?」と疑問に思ったとき、Web で American Family Physician などの家庭医療の雑誌を探してみる方も多いのではないのでしょうか。AFP だけでなく、The British Journal of General Practice ではどうだろうか、Australian Family Physician にはいいものがないかな、などと複数の雑誌を渡り歩いてみることもあります。

そのようなとき、Google の文献検索エンジン、**Google Scholar** を使うと便利です。Google のトップページから「サービス一覧」をクリックすると、たくさん並んだ中に Scholar はあります。Scholar に移動したら、「Scholar 検索オプション」を開きます。ここでは、キーワード、著者名、雑誌名、出版期間を入力できますが、雑誌名は 1 誌しか指定できない PubMed と違って、雑誌名もキーワードと演算子を使って幅のある検索ができるのが特徴です。「出版物」の欄に Family OR "general practice" と入れれば、米、英、豪、南アなどの家庭医療関係の雑誌を横断的に検索できることになります。検索結果をクリックすれば、全文またはアブストラクトが公開されたページにすぐ飛べます。

網羅性や MeSH、絞り込み機能などの面で PubMed の代わりにはなりません。ちょっとした参考資料探しには、使い慣れた Web 検索の操作感でそこそこの検索結果が得られ、利用価値は高いと思います。



# 事務局からのお知らせ



## メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約1,000名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

### ◎参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

### ◎目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

### ◎禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

### ◎加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）

氏名

勤務先・学校名

メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail：jafm@a-youme.jp

## 入会手続きについて

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続きについては、学会のホームページの「入会案内」をご覧になるか、事務局までお問い合わせください。

## 会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

## 異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

## 編集後記

今回は冬期セミナーの報告と学術集会の案内が主な内容となりました。

冬期セミナーは若手家庭医を対象としたものですが年々、内容が充実してきて「若手でない」家庭医が大勢参加したいと感じてきているものと思います。

また、新しい試みとして「サテライトワークショップ in 広島」の案内もあります。

生涯教育セミナー（大阪）に参加できなかった方を対象に人気講座をアンコールするという試みです。3学会合併に向けての動きも多い時期ですのでまめに学会のホームページをチェックしていただければと思います。

奈義ファミリークリニック 松下明

発行所：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局  
広報委員：

松下 明（会報担当理事）、三瀬順一

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F  
あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6441-2055

E-mail：jafm@a-youme.jp

ホームページ：http://jafm.org/